

食肉衛生検査所だより その5

今回は、主に牛や豚の血液の検査について、お話しします。

当所では、牛や豚を食用にできるか否かを診断するために血液の検査を行っています。

血液の検査を行うことで牛や豚の病気の推定や診断をすることができます。検査は主に3つに分類され、血液を顕微鏡で直接見る検査、赤血球や白血球など血球の数をはかる検査、そして血液に含まれる成分をはかる検査です。

- 血液を顕微鏡で直接見る検査

血液を直接観察して、牛や豚が炭疽菌をはじめとした病原菌に感染していないかを検査します。また、白血球の種類や形を見ることで、炎症程度の推測に役立っています。前回の「検査所だより」でお知らせした「白血病」など血液系の腫瘍の補助的な診断のためにも行っています。

- 赤血球や白血球など血球の数をはかる検査

測定機器を用いて、赤血球の数、白血球の数や血液の中の赤血球の割合などを測定することで、貧血、炎症や脱水の程度など牛や豚の状態を数値化し、病気の診断に役立っています。

- 血液に含まれる成分をはかる検査

測定機器を用いて、血液の中のグルコース、総コレステロール、尿素体窒素（BUN）や総ビリルビン（T-Bil）などを測定することで、栄養状態、肝臓や腎臓の機能の状態を数値化し、病気の診断に役立っています。

特に、BUNやT-Bilを測定することで、全身性の病気である尿毒症や黄疸を診断しています。

以上のように、みなさまが召し上がるお肉は、科学的な検査を経て、適合したものだけが、流通しています。



血球の数をはかる機器



血液の成分をはかる機器